

36.2%となっています。釜戸地区のデマンド交通（釜戸ルート）は利用者が年々増加しており、令和4年度には883人とコロナ禍前の利用者よりも増加しています。

市民アンケート調査では、「駅に駐車場がない」が不満なこととして挙げられており、駅の利用を促す観点から、駅施設の環境など改善を検討する必要があります。

(7) 稲津地区

地区内は東鉄バス明智線が瑞浪駅と地区を結んでおり、コミュニティバス萩原線が地区と市中心部とを結んでいます。コミュニティバス萩原線は、東鉄バス明智線と行先、ルートが重複していることから、利用者も少なくなっています。また、地区内には大型商業施設や病院など生活利便施設も多く立地しています。市民アンケート結果からも「公共交通が不便で困ることはほとんどない」との回答が6割弱を占めています。

本市の幹線路線でもある東鉄バス明智線を、引き続き重要な路線として維持していくため、東鉄バス明智線へのアクセスを重視した交通手段を導入していくことが重要です。また、地区内で生活利便施設も多いことから、地区内施設へのアクセスを重視した交通手段を導入していくことも求められます。

(8) 陶地区

地区内は東鉄バス明智線が瑞浪駅と地区を結んでおり、東鉄バス明智線と地区内を結ぶようにコミュニティバス陶線が運行しています。また、中学校の統合にともない、瑞浪南中学校の生徒を対象としたスクールバスが2路線運行されています。市民アンケート結果からは、「公共交通が不便で困ることがよくある」「たまにある」が合わせて36.2%となっており、公共交通が不便と感じている住民が多くなっています。

コミュニティバス陶線は、市中心部と繋がっていないことから、利用者が少なくなっています。また、市中心部と陶地区を結ぶ東鉄バス明智線も利用者は少なく、市民からは運行本数や時間帯、運賃などについて使いにくいとの意見も寄せられています。

本市の幹線路線でもある東鉄バス明智線については、引き続き重要な路線として維持していくため、バス料金の負担軽減のための検討や利用者を増やす取組を展開し、路線を維持していく必要があります。また、利用者が少ないコミュニティバス陶線については、利便性向上及び効率運行の観点から、デマンド交通への移行など、路線バスへの結線を重視した交通手段を検討する必要があります。

また、自家用車を持たない高齢者やバス停等までいくことが難しい高齢者も一定数いると考えられることから、**乗り合いタクシータクシーの「相乗りサービス」制度**の導入など、民間によるドア to ドアのサービスを促していく必要があります。